【様式1】

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

単元デザイン

教科・科目	国語・古典探究	学科・コース	普通科
単元名	古文の読み比べを通して、自分の価値観を問い直そう。		

単元目標

・　古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕（１）ア

・　古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりできる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ａ（１）カ

・　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

課題

・　同じテーマを取り上げた複数の古典の作品を読み比べ、自分の意見を論述したり発表したりする。〔関連　言語活動：Ａ（２）イ〕

「『桜の花は、日本の歴史や文化において特別な意味を持つと聞いたけれど、どのようなところが魅力ですか』とＡＬＴの先生に質問されました。あなたならどのように答えますか。『花月草紙』や『徒然草』を読み、あなたが考える桜の魅力を説明しましょう。」

単元の中心となる問い

・　「花」について、自分はどのような価値観をもっているだろうか。

評価規準（Ｂ段階）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・　古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 （１）ア	・　「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 Ａ（１）カ	・　古典の作品を読んだり他者と話し合ったりすることを通して、自分のものの見方や考え方を見直し、考えを深めたり広げたりしようとしている。
ＳＰ９　（基）	ＳＰ９　見　（創）　（分）　（発）	ＳＰ９　（奏）　（彩）　連　寄

評価場面・評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・　パフォーマンス課題 （記述の点検）	・　パフォーマンス課題 （記述の確認）	・　言語活動 ・　パフォーマンス課題 （行動の観察、記述の確認）

単元の指導計画

時	学習活動	指導と評価の観点 知	思	態	ＳＰ９
1	『花月草紙』（「花」）の話題を確かめ、桜に対する自分の考えを振り返る。	○	○		分析力
2	前半部分を口語訳する。	○			基礎力
3	後半部分を口語訳する。	○			基礎力
4	作者の主張をまとめ、作品の成立した時代や作者の経歴について確認する。	○	◎		分析力
5	『徒然草』（「花は盛りに」）を読み、『花月草紙』と比較する。	○	◎		分析力
6	『徒然草』（「花は盛りに」）を読み、『花月草紙』と比較する。	○	◎		分析力
7	『徒然草』と『花月草紙』の共通点と相違点をまとめる。		◎		分析力
8	パフォーマンス課題　自分の考えを論述する。		◎	○	発信力
9	【本時】パフォーマンス課題　自分の考えを発表する。		◎	○	発信力
10	単元の振り返り　文章を推敲して、学習を振り返る。		○	◎	自彩力

※本時の実際は裏面にあります。

【様式２】

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

授業デザイン

日時	令和８年１１月６日６限	指導者	北園　ゆきえ
学級	３年３組（少人数クラス22人）	場所	教室
単元名	古文の読み比べを通して、自分の価値観を問い直そう。		

目標

	目標	知	思	態
1	『花月草紙』や『徒然草』との共通点や相違点を踏まえて、自分の考えを発表することができる。		◎	○
2	作品を踏まえて他者と意見を交流することを通して、作品の内容や他者の考えと比較しながら自分のものの見方や考え方を深めることができる。			○

本時の実際

過程	主な学習活動	資質・能力の育成の工夫	知	思	態	ＳＰ９
導入 （5分）	・　前時までの確認。 ・　本時の課題の確認。	・　ロイロノートや学習記録用紙の記述を読み返す。【問いをもつ】 ・　活動の全体の見通しをもたせる。【見通しを立てる】 （　行動の観察・記述の点検）			○	自奏力
展開 （40分）	・　意見をペアで相互発表する。 ・　疑問点を質問したり、感想を述べたりする。 ・　２、３組のペア合同で意見交換を行って、最も説得力があると考えた意見を選び、その理由を共有する。 ・　全体で、代表４人の発表を聞く。	・　話す際には「古文の中で参考にした部分」や「自分の価値観」が明らかになるように表現を工夫させる。【意見を出し合う】 ・　聞き手は「共感できる点」や「詳しい説明を求めたい点」を伝えて、相手から追加の説明を引き出すようにさせる。【質問を交わす】 ・　話し合って、他グループの人に紹介したい意見を一つ選出させる。【考えを比べる】 ・　新たな気付きについて記述させる。【気付きを取り入れる】 （　行動の観察・記述の点検）		◎	○	発信力 創造力
まとめ （5分）	・　本時の学習を自己評価する。 ・　学習記録用紙に本時の振り返りを記入する。	・　ルーブリックを使って、発表を振り返らせる。【学びを振り返る】 ・　理解したことや気付いたこと、今後の課題について書くよう促す。【成果を見つける】 （　記述の確認）			○	自彩力

評価内容と評価

	評価内容	知	思	主	評価
1	『花月草紙』や『徒然草』との共通点や相違点を踏まえて、自分の考えを発表している。		◎	○	
2	作品を踏まえて他者と意見を交流することを通して、作品の内容や他者の考えと比較しながら自分のものの見方や考え方を深めている。			○	

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

単元デザイン

教科・科目	公民・倫理	学科・コース	音楽科（13人）・美術科（23人）
単元名	「第５章第１節１　日本の風土と伝統」		
単元目標	日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方との関係を踏まえて、自己の道徳観について考察する。		
課題	古来より日本人は神とどのように接していたのだろうか？		
単元の中心となる問い	これからの社会を生きる私たちはどのような道徳観をもち、どのような心構えや考え方を身に付けなければならないのだろうか。		

評価規準（Ｂ段階）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古来の日本人における宗教観や信仰の在り方と、外来文化の受容をとおして形成される日本人の自然観や道徳観とを比較しつつ、日本人の道徳観と西洋の科学観がどのように共存していったのかについて理解する。	先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現できる。	古来の日本人の心情や外来文化の影響をもとに、これからの自分の生き方やあり方について、主体的に考えられている。
ＳＰ９ （基）	ＳＰ９ （見） （創） （分） （発）	ＳＰ９ （奏） （彩） （連） 寄

評価場面・評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・　定期考査 ・　観察・実験レポート	・　パフォーマンス課題 ・　定期考査 ・　観察・実験レポート	・　言語活動 ・　パフォーマンス課題

単元の指導計画

時	学習活動	指導と評価の観点			
		知	思	態	ＳＰ９
1	日本の風土は、日本人の気質や文化にどのような影響を与えたのか理解する。	◎			基礎力
2	アニメーション作品を通して古来日本の神道と古来日本人の道徳観を考察する。【本時】		○		発信力
3	日本の仏教と原始仏教とを比較しその違いや他宗教の影響を考察する。		○		創造力
4	水墨画や能楽など日本の文化作品を通して日本における宗教が社会に与えた影響を考える。		◎		見聞力
5	朱子学の人間観や世界観とはどのようなものだったのか想像し考察する。	○			自奏力
6	儒学の普及した江戸で国学や町人文化はなぜ誕生したのか考察し、検証する。			○	分析力
7	西洋の思想や文化の受容が、それまでの日本人の価値観にどのような影響を与えたのか考察する。	○			自彩力
8	これまでの日本の宗教を振り返り、現代社会で求められる道徳観について考察する。			◎	自奏力

※本時の実際は裏面にあります。

【様式２】

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

授業デザイン

日時	令和８年11月６日　５限目	指導者	日笠山　健
学級	３年７組（音楽科）13人・８組（美術科）23人	場所	３年８組教室
単元名	「第５章第１節１　日本の風土と伝統」		

目標

	目標	知	思	態
1	日本における神と信仰の特徴について理解できる。	○		
2	自己の意見を根拠に基づいてまとめることができる。		○	
3	他者の意見を尊重し、傾聴することができる。			○
4	自己の意見を他者の意見と比較しながら、深化させることができる。		○	

本時の実際

過程	主な学習活動	資質・能力の育成の工夫	知	思	態	ＳＰ９
導入（３分）	・　前回までの復習 ・　問いと本時の目標の確認	・　日本人の心情や考え方は、日本の風土の中で形成されたことを復習させる。				基礎力
展開（37分）	・　日本のアニメーション作品（以下、作品）に登場する神について、事前に作成したカードをロイロノートで相互に発表しあう。 ・　グループで紹介しあった神の様子を見ながら、意見を交わしつつ日本の神の特徴について考察する。	・　作品内のキャラクターの特徴をつかみ、その神が誕生した理由を自分なりに考察させる。 ・　これまでに学習した外国の神と比較し、日本の神が自然のものや身近なものであったことに気付かせる。				想像力 見聞力 分析力 連携力
まとめ（10分）	・　作品の主人公の行動等をとおして、日本人の宗教観や道徳観の特徴を理解し、ロイロノート等を用いながら個人でまとめる ・　次回の思想の確認	・　神の二面性や人々と神との関係性から、古来より人々が神に対して身近に感じつつも「畏敬」の念をもって生活していたことを生徒自身の生活や行動、または身の周りを振り返って理解する。 ・　他者と意見を交わしたり他者の意見を参考にしたりしながら古来の日本人の宗教観や道徳観の特徴について、自分の言葉でまとめさせる。 ・　日本神道が根付いた日本において、仏教がどのように普及していったのかを生徒に紹介し、今時の内容が次回以降も求められることを再度周知しておく。				寄与力 発信力 自奏力

評価内容と評価

	評価内容	知	思	主	評価
1	日本の神と日本人の信仰の特徴を理解している。	○			○
2	根拠に基づいて自己の意見をまとめている。		○		○
3	他者の意見を尊重し、傾聴しようとしている。			○	
4	自己の意見を他者の意見と比較しながら、深化させることができる。			○	

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

単元デザイン

教科・科目	数学・数学Ⅰ	学科・コース	普通科
単元名	図形と計量		
単元目標	・　三角比についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、三角比を用いて事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 ・　三角比を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、三角比の表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 ・　三角比について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。		
課題	日常生活の事象を考察することを通して、問題解決に必要な三角形を見いだし、四角形の面積を求めることができる。		
単元の中心となる問い	どこの辺の長さや角の大きさが分かれば四角形の面積を求められるのか。		

評価規準（Ｂ段階）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・　鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・　三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比を求める方法を理解している。 ・　正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	・　図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 ・　図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・　三角比やそれに関わる定理・公式のよさを認識し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ・　三角比やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用した問題解決において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。
ＳＰ９　㊎	ＳＰ９　㊐　㊒　㊓　発	ＳＰ９　㊔　彩　㊕　寄

評価場面・評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト	授業プリントの提出 学習における言語活動 振り返りシート

単元の指導計画

時	学習活動	指導と評価の観点			
		知	思	態	ＳＰ９
1	三角比の定義	◎			基礎力
2	三角比の相互関係	◎			基礎力
3	三角比の拡張、相互関係	◎	○		分析力
4	等式を満たす角θ、直線の傾きと正接	○	○		分析力
5	正弦定理	○	○	○	自奏力
6	余弦定理	○	○	○	自奏力
7	図形の面積	○	○	○	連携力
8	図形の計量（本時）		◎	◎	創造力

※本時の実際は裏面にあります。

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

授業デザイン

日時	令和８年11月６日（金）	指導者	清家　賢
学級	１年４組（39人）	場所	１年４組
単元名	図形と計量		

目標

	目標	知	思	態
1	日常生活の事象を考察することを通して、問題解決に必要な三角形を見いだし、四角形の面積を求めることができる。		○	○

本時の実際

過程	主な学習活動	資質・能力の育成の工夫	ＳＰ９
導入 （５分）	・　余弦定理、三角形の面積の公式を復習し、考え方を確認する。	・　本時に用いる既習事項を確認させる。（基礎力）	基礎力
展開 （20分）	円に内接する四角形ABCDにおいて、∠A＝60°、AB=8、BC=3、DA＝5のとき四角形の面積を求めよ。 ・　四角形の面積をどのようにして求めるかを考察する。 ・　どこの値が分かれば三角形の面積を求められるか考察する。 ・　自分で計算して求める。 ・　解説を聞く。	・　１人で考えさせた後、他者と意見交換させる。そのとき、なぜその定理を使ったのか説明させるようにする。（連携力・発信力） ・　計算する時間を十分確保する。（分析力）	連携力 発信力 分析力
展開 （20分）	円形の畑に４つの杭を打ち、ロープで繋ぎ、その内側で作物を作る。多くの作物を収穫するためにはどうしたらよいか。 ・　日常生活の事象を数学的に表現した問題に処理し、考察する。 円に内接する四角形ABCDにおいて、∠A＝60°、AB=8、DA＝5のとき四角形の面積の最大値を求めよ。 ・　生成AIで作成した円に内接する四角形のアプリを利用して点を動かし、考察する。 ・　どこの値が分かれば条件に合う三角形の面積を求められるか考察する。	・　数学化するために必要な条件を与え、日常生活の事象を数学的に表現した問題に処理させる。（創造力） ・　１人で考えさせた後、他者と意見交換させる。（連携力・発信力） ・　生成AIで作成した円に内接する四角形のアプリを与え、分割した三角形のうち、面積が変化している三角形に気付かせる。（分析力）	創造力 連携力 発信力 分析力
まとめ （５分）	・　次時の予告を確認する。 円に内接する四角形ABCDにおいて、AB＝1、BC=2、CD=3、DA=4のとき、四角形ABCDの面積を求めよ。 ・　本時の振り返りシートを書く。	・　どこの値が分かれば四角形の面積を求められるのかを１人で考え、振り返りシートを書かせる。（分析力）	分析力

評価内容と評価

	評価内容	知	思	主	評価
1	日常生活の事象を考察することを通して、問題解決に必要な三角形を見いだし、四角形の面積を求めることができている。		○	○	

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

単元デザイン

教科・科目	理科・化学基礎	学科・コース	普通科・理科コース
単元名	酸と塩基		
単元目標	・ 酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。 ・ 水素イオン濃度とｐＨとの関係を知り、ｐＨの値で、水溶液の酸性・塩基性の程度がわかることを理解する。 ・ 酸と塩基が反応するとたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解するとともに、塩の分類と塩の水溶液の液性について理解する。 ・ 中和ではH^+とOH^-とが1：1で反応することを理解するとともに、中和滴定において、より正確な値を得るために必要な器具の扱い方や操作方法を身に付け、酸と塩基の量的関係について理解を深める。		
課題	「酸と塩基」で学習した内容や、ｐＨの測定、中和滴定などの実験で習得した技能を活用し、未知の酸、塩基、塩の水溶液がそれぞれどの物質であるかを調べるための実験を計画し、検証実験を行い、その結果を考察することによって同定する。		
単元の中心となる問い	未知の水溶液は、どのような根拠に基づいて見分けることができるのだろうか。		

評価規準（Ｂ段階）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
酸･塩基についての基本的な概念や定義などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	酸･塩基に関する観察、実験などを行い、資料や実験結果を分析し、価数や電離度、ｐＨ、中和反応における量的関係などとの関連性を見いだして表現する。	酸・塩基に関する観察、実験などに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。
ＳＰ９ (基)	ＳＰ９ 見 (創) (分) 発	ＳＰ９ 奏 彩 (連) 寄

評価場面・評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 小テスト ・ 振り返りテスト ・ 定期考査	・ パフォーマンス課題 ・ 実験レポート ・ 振り返りテスト ・ 定期考査	・ パフォーマンス課題 ・ グループ活動 ・ 課題の取り組み状況

単元の指導計画

時	学習活動	指導と評価の観点 知	思	態	ＳＰ９
1 2	酸と塩基＜実験＞	○		○	基礎力 連携力
3 4	酸と塩基の分類　酸と塩基の価数＜実験＞	○	◎	○	基礎力 創造力
5	酸と塩基の分類　酸と塩基の強弱	○			基礎力
6 7	水素イオン濃度とｐＨ	○			基礎力 分析力
8	中和反応と塩	○			基礎力
9	中和反応と量的関係	○			基礎力
10 11	中和滴定＜実験＞	◎	○	○	基礎力 分析力
12 13	探究活動＜実験＞　**※本時１／２**		◎	○	分析力 創造力

※本時の実際は裏面にあります。

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

授業デザイン

日時	令和８年11月６日（金）５限目	指導者	春園静香
学級	２年４組（40名）	場所	化学室
単元名	酸と塩基（探究活動）		

目標

	目標	知	思	態
1	酸・塩基に関する既習事項やこれまでの実験で習得した技能を関連付けながら、科学的な根拠に基づいて未知の水溶液を同定するための実験を計画している。		○	
2	自ら設計した未知の水溶液を同定する実験計画の妥当性や実験結果について考察し、科学的な根拠をもって説明できる。		○	
3	未知の水溶液の同定に向けて、酸・塩基に関する観察、実験などに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりしながら、科学的に探究しようとしている。			○

本時の実際（１／２）※研究公開時

過程	主な学習活動	資質・能力の育成の工夫	ＳＰ９
導入 （10分）	１【本時の目標把握】 単元で学んだ知識・技能を必要に応じて関連付け、実験によって酸、塩基、塩の水溶液を同定することを確認する。 ２【課題設定】 複数の未知試料（酸、塩基、塩の水溶液）を同定せよ。	・ 既知の知識・技能を関連付けて実験方法を検討し、その根拠をもって説明することが、本時の目指す姿であることをルーブリックで共有する。【評価規準を確かめる】 ・ 課題を提示し、酸、塩基、塩の水溶液を同定するために、何を明らかにする必要があるかを考えさせる。【見通しを立てる】	基礎力
展開 （25分）	３【既習事項の想起・関連付け】 「酸と塩基」で学習した内容や、ｐＨの測定、中和滴定などの実験で習得した操作など、課題の解決に必要な既習事項を整理し、どのように関連付けて活用できるかを考える。 ４【実験方法の検討】 (1) 酸・塩基の価数、液性、酸・塩基の強弱、ｐＨなどの特徴を整理し、未知の水溶液を同定するために活用できる情報を検討する。 (2) これまで使った器具や操作方法で、何を明らかにすることができるのか検討する。 (3) 班で考えを共有し、実験方法の妥当性を検討する。	・ 試料だけでなく、使用する指示薬や用具などについても認し、既習事項や実験を通して習得した技能を関連付けながら、未知の水溶液を同定するためにどう利用するか考えさる。【方法を選ぶ】 ・ 複数の水溶液について、価数や液性、ｐＨなど、必要な目を比較・整理できるよう、表を活用して既習事項を関連付けながら考えさせる。【考えをまとめる】 ・ 個人で実験手順や予想される結果を検討した後、班で考えを共有し、それぞれの考えの共通点や相違点を基に実験方法の妥当性を検討させることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。【考えを比べる】	分析力 創造力
まとめ （15分）	(4) 班としてまとめた実験計画やその根拠を説明し、他班の考えと比較・検討することで、自班の考えの妥当性を問い直したり、考えを修正・発展させたりする。	・ 操作や手順は１つではないことを伝え、班としてまとめた実験計画に根拠をもたせ、さらに他者の考えに触れることで、自班の考えの妥当性を問い直したり、考えを修正・発展させたりする。【根拠を補う】	分析力

<table>
<tr><td rowspan="3">本時の実際（2／2）</td><td>導入
（10分）</td><td>1【本時の目標確認】
　単元で学んだ知識・技能を必要に応じて関連付け、実験によって酸、塩基、塩の水溶液を同定することを確認する。

2【課題確認】
　複数の未知試料（酸、塩基、塩の水溶液）を同定せよ。</td><td>・　班で設計した計画をもとに実験を行い、その妥当性を確認するとともに、計画の修正は可能であることを伝える。また、予想と異なる結果が得られた場合も、その理由を考察することで、根拠をもって説明する力につながることを、ルーブリックで共有する。【評価規準を確かめる】
・　実験に際しての注意点についても確認させ、正確かつ安全な操作に努める自覚をもたせる。</td><td>基礎力</td></tr>
<tr><td>展開
（30分）</td><td>3【実験】
　検討した方法に基づいて実験を行い、結果を記録する。
4【結果の整理】
　実験結果を整理する。
5【結果の分析】
　実験結果を分析し、予想や結果にずれが生じた場合は、その原因について考察する。
6【共有・検討】
　班で考察を共有し、互いの考えを比較・検討する。</td><td>・　得られた結果を適切に記録・整理し、後の分析・比較に必要な情報を明確にできるようにする。【情報を集める】
・　結果の違いや考察の根拠について互いに説明させ、他者の考えに触れることで、自分の考えを修正・発展させることを促す。【理由を説明する】
・「どの結果を根拠にそう考えたのか」、「その結果をどの知識と結び付けたのか」と問い、根拠を明確にして説明させる。【根拠を確かめる】</td><td>分析力
連携力</td></tr>
<tr><td>まとめ
（10分）</td><td>7【振り返り】
　課題解決に向けて、どの知識・技能を選び、どのように関連付けたのかを振り返る。</td><td>・　実験や考察を通してどのように理解を深め、思考を変化させたかを可視化する。【気付きを取り入れる】
・　課題解決の過程を振り返らせ、課題に応じて知識・技能を選択し、関連付けて活用することが、根拠をもって説明することにつながったことを自覚できるようにする。【学びを振り返る】</td><td>分析力</td></tr>
<tr><td>評価内容と評価</td><td colspan="4"><table>
<tr><th></th><th>評価内容</th><th>知</th><th>思</th><th>主</th><th>評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>　酸・塩基に関する既習事項やこれまでの実験で習得した技能を関連付けながら、科学的な根拠に基づいて未知の水溶液を同定するための実験を計画している。</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>　自ら設計した未知の水溶液を同定する実験計画の妥当性や実験結果について考察し、科学的な根拠をもって説明できる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td>　未知の水溶液の同定に向けて、酸・塩基に関する観察、実験などに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりしながら、科学的に探究しようとしている。</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
</table>

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

単元デザイン

教科・科目	英語コミュニケーションⅡ	学科・コース	音楽科
単元名	Lesson 5 Universal Design：Convenient for All / Big Dipper English Communication（数研出版）		
単元目標	・ユニバーサルデザインに関する語彙や表現、音声等を理解すること。（知識） ・社会的な話題についての情報や考えを理由とともに話して伝えるこ技能を身に付けること。（技能） ・ユニバーサルデザインの考え方をもとに、様々なニーズや立場を考え、自身の考えを形成すること。（思考力・判断力・表現力） ・他者との対話を通して得た新たな視点や意見をもとに、自身の考えを見直し表現すること。（思考力・判断力・表現力） ・聞き手や読み手に配慮し、自身の考えをより分かりやすく伝えようとするとともに、他者との対話を通して考えや表現を改善しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）		
課題	地域で開催される音楽イベントで多様な参加者が楽しめるように、多国籍のメンバーに自身のアイディアを提案する。		
単元の中心となる問い	ユニバーサルデザインの考え方を生かして、より多くの人が音楽を楽しめるようにするにはどうすればよいだろうか。		

評価規準（Ｂ段階）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ ユニバーサルデザインに関する語彙や表現・音声等を理解している。 ・ 社会的な話題（ユニバーサルデザイン）についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身につけている。	・ ユニバーサルデザインの考え方をもとに、様々な人のニーズや立場を考え、音楽イベントにおける課題や必要な工夫について自身の考えを形成している。 ・ ユニバーサルデザインの考え方をもとに、様々な人のニーズを踏まえて、音楽を楽しむための工夫を考え、他者との対話を通して得た新たな視点をもとに自身の考えを見直し、多様な音楽の楽しみ方　を英語で表現している。	・ ユニバーサルデザインの考え方をもとに、様々な人のニーズや立場を考え、音楽イベントにおける課題や必要な工夫について、自身の考えを形成しようとしている。 ・ ユニバーサルデザインの考え方をもとに、様々な人のニーズを踏まえて、音楽を楽しむための工夫を考え、他者との対話を通して得た新たな視点をもとに自身の考えを見直し、多様な音楽の楽しみ方を英語で表現しようとしている。
ＳＰ９　基	ＳＰ９　見　(創)　分　(発)	ＳＰ９　奏　彩　(連)　寄

評価場面・評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・小テスト ・定期考査	・言語活動 ・パフォーマンス課題 ・定期考査	・言語活動 ・パフォーマンス課題

単元の指導計画

時	学習活動	指導と評価の観点			
		知	思	態	ＳＰ９
1	Lesson5 の導入			○	見聞力
2	Part1 Universal Designの例に関する概略理解・スピーキング活動	○	○		基礎力 発信力
3	Part2 Universal Designの概念に関する概略理解・スピーキング活動	○	○		基礎力 発信力
4	Part3 Universal Designの例に関する概略理解・スピーキング活動	○	○		基礎力 発信力
5	Part4 Universal Designの課題に関する概略理解・スピーキング活動	○	○		基礎力 発信力
6	Lesson5 のまとめ、ライティング活動		○		分析力 創造力
7	Lesson5 のまとめ，ライティング活動・スピーキング活動		◎	○	連携力 発信力
8	Lesson5 のまとめ，スピーキング【本時】		◎	○	連携力 発信力 分析力

※本時の実際は裏面にあります。

【様式２】

ＳＳＴＰ（Shoyo Simple Teaching Plan）

授業デザイン

日時	令和８年１１月６日（金曜日）６限目	指導者	山下　佳奈美
学級	２年７組（３３名）	場所	２年７組教室
単元名	Lesson 5 Universal Design：Convenient for All / Big Dipper English Communication（数研出版）		

目標

	目標	知	思	態
1	多様な人々が音楽を楽しめるイベントについて、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、理由や根拠を明確にしながら企画を考える。		○	
2	多様な人々の立場や考え方を尊重しながら、他者の意見を踏まえて、企画や発表内容を見直し改善しようとする。			○

本時の実際

過程	主な学習活動	資質・能力の育成の工夫	知	思	態	ＳＰ９
導入 （１０分）	１．　帯活動 ２．　本時の課題の確認 Share Your Ideas: Music event for More People 地域で開催される音楽イベントで多様な参加者が楽しめるように、多国籍のメンバーにアイディアを提案する。	・ 英語で簡単な対話をすることで英語学習の雰囲気作りに努める。【考えを伝える】【相手の話を聞く】 ・ 個々の捉え方の違いや固定観念を意識をさせる。 ・ 課題を明らかにし、本時で取り組む活動の動機づけを行う。 ・ 目的や場面、状況を明確にし、活動に取り組めるように促す。【見通しを立てる】		○		発信力
展開 （３５分）	３．　発表準備【ペア】 １）対話を通して自身の考えを共有 ２）発表原稿の改善点を共有 ３）発表練習 （発表原稿とスライドの確認） ４．　提案を発表【グループ】 １）提案の共有 ・自身のアイデアを英語で提案する。 ・聞き手： 感想を伝えたり質問をしたりする。 ２）自身の考えを再度確認 ・ 改善点があれば修正す ３）パフォーマンス課題：発表・録画 ・役割： Presenter,Commenter,Recorder ・録画した動画を提出する。	・ パフォーマンステスト（話すこと[発表]）の採点基準について確認させる。 ・ 自身の考えの確認をさせる。【根拠を確かめる】 ・ 生成AIや他者の視点を得てどのように考えを再構築し、自身の考えを深めたか確認するように促す。【考えを比べる】 ・ 聞き手： ・ 感想の伝え方や質問の仕方等に関する表現方法や語彙の確認ができるように支援する。 ・ 口頭だけではなく、視覚的にも残るように感想、 質問等を用紙に記入する。【考えを伝える】 ・ 話し手： ・ 聞き手に伝わりやすいように他者意識を持って発表するように促す。【表現を工夫する】 ・ 今回のフィードバックや発表を通して感じたことを受けて改善点を考え発表に反映するように促す。 ・ 課題に対する自身の考えを見直すように促す。 ・ 録画した動画の提出を促す。【考えを見直す】【気づきを取り入れる】		◎	○	連携力 発信力
まとめ （5分）	５．本時の振り返り	・ 対話や発表を通した気づきや、達成できたことや、改善点などを振り返るように促す。【課題を整理する】 ・ 教師のフィードバックを行い今後の学習意欲の向上に努める。			○	分析力

評価内容と評価

	評価内容	知	思	主	評価
1	多様な人々が楽しめる企画について具体的な提案を示しているか。		○		
2	ユニバーサルデザインの考え方が企画に反映されているか。		○		
3	企画内容を理由や根拠を示し提案しているか。		○		
4	他者の意見を踏まえて、企画や発表内容を改善しようとしているか。			○	
5	振り返りを通して、自身の学びや今後の課題を捉えようとしているか。			○	

個別最適な学びと協働をつなぐ授業モデル

6つの学習段階 × 各5つの活動 = 30の表現

① 問い・目標をつかむ

1. 問いをもつ
2. 課題を見つける
3. 目標を決める
4. 見通しを立てる
5. 評価規準を確かめる

② 個人で考える・選ぶ

1. 自分で考える
2. 情報を集める
3. 方法を選ぶ
4. 試してみる
5. 考えをまとめる

③ 伝える・聞く

1. 考えを伝える
2. 理由を説明する
3. 相手の話を聞く
4. 質問を交わす
5. 意見を出し合う

④ 比較する・確かめる

1. 違いを見つける
2. 共通点を探す
3. 根拠を確かめる
4. 考えを比べる
5. よさを見いだす

⑤ 伝え直す・書き直す

1. 考えを見直す
2. 気付きを取り入れる
3. 根拠を補う
4. 表現を工夫する
5. 自分の言葉で伝え直す

⑥ 振り返り・次の目標へ

1. 学びを振り返る
2. 変化を確かめる
3. 成果を見つける
4. 課題を整理する
5. 次の目標を決める

重点：③ 伝える・聞く → ④ 比較する・確かめる → ⑤ 伝え直す・書き直す

教科・単元・題材に応じて活動を選び、対話で得た気付きを自分の表現に返す。